

令和2年度玄海みらい学園 学校評価計画

1 前年度 評価結果の概要	学校教育目標「みらいへの挑戦～Go up～への認知度は高く、ことあるごとに保護者や地域に発信してきた成果が表れていた。また今年度は、県指定の学力向上推進地域指定を受け、全職員で学習スタイルの構築を行いそれをもとに授業に取り組み、前年度より成果を上げることができた。海洋教育についても積極的に取り組むことができ、学園として学年段階を違った系統的な活動を行うことができた。さらに、深化させるためには学習してきたことを発信する力を養うとともに、玄海町として地域の特性と良さを広く伝えられるようにしていきたい。			
	課題として、今年度取り組んできた校内研究をさらによいものにするための方策が必要である。また、児童生徒が自主的に物事に取り組む経験を積むことで達成感を味わわせる必要がある。			
	2 学校教育目標			
	3 本年度の重点目標			
4 重点取組内容・成果指標	(1)共通評価項目			
	重点取組			
	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
	●学力の向上	●「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえたoutput活動の充実	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合が、前期課程80%以上、後期課程70%以上。	・「まとめ・振り返りシート」を作成・活用し、書く活動を確保できる授業づくりを行う。 ・授業だけでなく学校教育の様々な場面で、「話し合い」や「書く」のようなoutput活動を取り入れる。
		○基礎学力の定着と応用力の伸長	○「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭学習に対する保護者の意識をさらに高める。(全学年) ○「output活動を通して、考えが深まったや発表力が高まった」と回答する生徒の割合が70%以上。(後期課程) ○年間を通して、各学年の「おすすめの本」貸出達成児童80%以上。(前期課程)	・家庭学習の時間等のアンケート結果を配布し、家庭での学習に関心をもってもらう。 ・全教科を通して、「条件に合わせて書く」「自分の意見をまとめて書く」などの活動を取り入れる。(後期課程) ・各学年の「おすすめの本」を設定し、読書を薦める。(前期課程)
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○縦割り掃除を年間を通して行う。 ○前期課程の縦割り遊びを年10回以上行い、異学年との交流を図る。	・全学年による縦割り掃除を行う。 ・前期課程児童による縦割り遊びを行う。 ・体育大会では、縦割り活動班対抗の種目の実施。
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめに気付き、注意したり、先生に知らせたりできる」という児童生徒80%以上。 ○いじめの発生時に組織的な対応ができていると答える職員90%以上。	・いじめの定義や事例について、全てのクラスで道德の授業や人権教室等で取り扱い、全校児童生徒の人権意識が高まるようにする。 ・発生したいじめ事案をその日のうちに共有できるように、生活部、教育相談部、特別支援教育部が中心となり、管理職の指示のもと全職員と連携を図る。
		○児童生徒一人ひとりを大切にし、受容と共感的理解に基づいた生徒指導の育成	○「自分で善悪の判断をしながら物事を考えて行動します」とのアンケートで達成割合90%以上。 ◎「自分の友達との違いを受け入れながら、誰とも公平に接している」とのアンケートで達成割合90%以上。	・月1回の人権集会の実施や、授業を通して人権・同和教育を行う。 ・道德教育や学校行事を通して、よりよい人間関係づくりを構築する。 ・気になる児童や生徒に関する情報交換の場(連絡協議会や教育相談等)を設けながら指導にあたる。
	●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で210分以上の児童、420分以上の生徒が80%以上	・屋休みには体育館や運動場の使用割り当てを決め開放する。 ・校内持久走大会を計画・実施し、体育の時間や休み時間に運動場を走ることと呼びかける。(前期課程) ・体育の授業では、ランニングと強化トレーニングを行う。(後期課程) ・部活動への積極的な入部・参加を勧める。(後期課程)
		○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上	・朝食摂取、残菜0を呼びかける。 ・五大栄養素の大切さを食育により指導する。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間40時間内の職員80%以上	・タイムマネジメントを行うとともに、定時退勤日の推進や部活動指導の分業化による負担軽減、平日の残業時間の削減を強く進める。
		○校務等の効率化の推進	○校内LANを用い、全職員が校務に関するデータの共有を図り、全職員参加の会議の時間を15%削減	・校内LANで校務データを共有し、誰もが利用できる環境にすることで効率化を図る。
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組			
	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
	○母校の誇りづくり	○自ら笑顔であいさつや返事ができる児童生徒の育成	○登下校時の挨拶を自らできる児童生徒70%以上 ○廊下等ですれ違う時に挨拶が出来る児童生徒50%以上	・登下校時の挨拶は、子どもから挨拶をするのを待つのではなく、大人(職員)側から積極的に声をかけるように共通理解を図り、実践する。
	○児童生徒会活動の充実	○児童生徒会活動の活性化を図り、受容と共感的理解に基づいた生徒指導の充実	○年3回以上代表委員会を開催する。 ○年10回以上生徒集会を行う。	・代表委員会を開催し、児童生徒の意見を取り入れた活動を行う。 ・地域貢献・ボランティア活動を行う。 ・生徒総会の実施。
○特別支援教育の充実	○児童生徒一人ひとりの理解や個に応じた指導の改善	○児童生徒1人ひとりの実態把握と理解をめざし、全職員による情報共有の場を学期に2回以上設ける。 ○より新しい特別支援教育の視点を取り入れた全職員対象の研修を年に1回以上行う。	・年度初め、学校行事の前、児童生徒指導協議会、年度末において、情報交換の場を設ける。 ・児童生徒の困り感を特別支援・生徒指導・教育相談の三方向から分析し、ケース会議を通してより良い支援や指導、関係機関との連携につなぐ。 ・特別支援教育に関わる専門的な知識や経験を有する講師を招聘し、職員研修会を行う。	